

ハンノキシロカイガラムシ

ハンノキ類に寄生する小さな白いカイガラムシ。長さ約1mmで細長い、または長さ2.5mm内外の胡麻粒形。幹、枝、葉、果実など様々な部位につく。

多発すると、枝を枯らしたり幼木を枯らすことがあるとされる。北海道での被害実態は不明。

【学名】 *Chionaspis alunus*

【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) , マルカイガラムシ科 (Diaspididae)

【分布】 北海道, 本州, 四国; 朝鮮, ロシア東部。

【生態】

宿主：ハンノキ属 (ハンノキ, ヤマハンノキ, ヒメヤシャブシ) .

年2回発生。成虫の殻の下で卵で越冬する。

【文献】

1980. 河合省三. 日本原色カイガラムシ図鑑. 全国農村教育協会, 東京. (分類, 形態, 寄主の解説)

1994. 河合省三. ハンノキシロカイガラムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集. 森林昆虫, 総論・各論: 426-427. 養賢堂, 東京.
(形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ハンノキシロカイガラムシ [kaigara/hansiro/kaisetu.htm](#)

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/2/7.